

自己点検・評価報告書

2025 年 10 月 8 日

自己点検・評価委員会

本学では 2022 年度より、金沢星稜大学との共通科目として「MDASH リテラシー I」・「MDASH リテラシー II」を開講し、すべての学生が、学術的のみならず社会的にも活用できるデータサイエンスの知識を習得し、問題解決のための手法や考え方を身につけることを目指した教育プログラムを展開している。

2024（令和 6）年度に実施したプログラムについて自己点検・評価を実施した。

1. 評価体制

自己点検・評価委員会は、本学における教育研究活動等の状況を自己点検・評価し、改善を行っていくために審議する組織として設置されている。数理・データサイエンス・AI リテラシープログラムについても、全学で実施するプログラムであることから、当委員会において、自己点検・評価を行っている。

2. 自己点検・評価の対象科目

「MDASH リテラシー I」（1 単位）

「MDASH リテラシー II」（1 単位）

3. 自己点検・評価の内容

3-1 プログラムの履修・修得状況

2022 年度より、「数理・データサイエンス・AI リテラシー」科目（2 単位）が教養科目の中に設置され、2024 年度より、科目名がと配当期を変更した。1 年次学生を対象にその学修目標と授業実施方法の詳細についてのガイダンスを行い、履修希望学生の登録が行われた。開講科目の履修登録状況および修得状況は、教務課に登録されている情報によって把握しているが、同「MDASH リテラシー I」・「MDASH リテラシー II」科目についても、同様に教務課での把握を行うとともに、総合情報センターにおいても履修状況と単位修得状況を把握している。

当科目はオンデマンド（非同期型）形式で開講されている。2021 年度より「e 生活文具（iPad）」として、新入生全員にタブレット（iPad）を貸与しており、学生は本学の LMS（Learning Management System）と動画配信システム（CLEVAS）を活用して、開講期間や指定された学修期間の中で学修を進めている。また、授業担当者はこれらのシステム上で、履修者ごとの学修の進捗状況および課題・レポートに対する回答状況などの学修履歴を包括的に確認することが可能であり、全受講者の学修状況の管理を行っている。成績評価については、これらの学修履歴と課題達成状況、グループフォーラム内の発言、およびピアレビューへの参加度を加味し、総合的に行われている。

2024（令和 6）年度の履修・修得状況は以下のとおりである。

表 科目名：「MDASH リテラシー I」・「MDASH リテラシー II」の履修および修得状況（2024 年度）

履修者数	修得者数	修得率
30	26	86.6%

（注）「履修者数」には再履修者を除いている。

3-2 学修成果の把握

本学が導入している LMS および動画配信システムにおいて、本教育プログラムの学修状況と教材内の課題提出状況については履修者ごとに把握されている。プログラムを前後期の 2 科目に分け、学修内容と学修期間ごとの目標を示すことで、オンデマンド形式においても受講者が円滑な学修を進められるように工夫されている。フェーズ毎に出される課題については、総評をフィードバックするとともに、グループワークについては受講者間でピアレビューを行い相互評価に資するように設計されている。また、受講後は授業評価アンケート調査を実施し、ポートフォリオから得られるデータを分析し学修成果の把握を行っている。これらの結果は、総合情報センターの運営委員会に報告されるとともに、自己点検・評価委員会にて学修成果のさらなる向上に向けた施策の検討を行っている。

3-3 学生アンケートを通じた「理解度、満足度」等の評価

本学「授業評価アンケート」によって「数理・データサイエンス・AI リテラシー」プログラム科目の理解および満足度等について学生評価を調査している。

学生の評価コメントを見ると、本学では決して多くはないオンデマンド形式の授業において、時間と場所の融通が利くことを上げて、取り組みやすいという評価があった。

3-4 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムは完全オンデマンド形式の授業で開講しており、カリキュラムや時間割には依存せずに履修が可能である。履修対象となる 1 年次には特に新入時の履修ガイダンスで科目の説明を行い履修者増に努めている。学期ごとに履修者数、履修率を調査・分析し、その向上のための継続的な取り組みを行っている。

4. 評価結果（総括）

数理・データサイエンス・AI に関する教育プログラムは 2022 年度から開講された新しい教育プログラムである。開講科目は 1 年次を対象としており、本学のすべての学生が、学術的のみならず社会的にも活用できるデータサイエンスの知識を習得し、問題解決のための手法や考え方を培っていくことを目的としている。本教育プログラムを全学生が修了できるようにするために、開講科目はオンデマンド形式で実施し、教育実践の具体的方法としても、対談形式の教材動画の配信や学生のコメントに対するフィードバックなど、受講生の学習意欲を喚起する工夫を先進的に行っていることは高く評価できる。

また、オンデマンドのメリットが生かされている点が大いとはいえ、オンデマンドは孤独な修学スタイルであり、モチベーションの維持が問題となる。しかし、86.6%という高い修得率は、学生の努力と科目担当者のフォローの成果と考えたい。

以上